新型インフルエンザ対策

現在、国は新型インフルエンザの大流行（パンデミック）に備えて、行動計画やガイドラインを作成し国民に対しての情報提供を行っています。

この新型インフルエンザが実際に出現すると、世界中で爆発的な感染を引き起こし、私たちの健康だけでなく社会の機能にも大きな被害を与えると考えられています。私たち一人ひとりが正しい知識を持ち、落ち着いて行動できるよう日頃から準備をしておくことが大切です。

●新型インフルエンザとは？

日本で毎年冬に流行するインフルエンザは季節性インフルエンザと呼ばれ、人から人へ感染します。また、鳥の間で流行するインフルエンザの中で強い毒性を持ち死に至るものがあります。これが高病原性鳥インフルエンザと呼ばれ、まれに人へも感染することが確認されています。鳥インフルエンザウイルスはほかの動物へ感染することがあり、その後、感染していくために性質を変えることがあります。鳥から人への感染が起こると、ウイルスが性質を変化させ、人から人へと次々に感染する新しいインフルエンザが発生することになります。

●大流行はいつ起こる？

ほとんどの人が免疫を持たず、感染力が強い新型のインフルエンザが、今後大流行を引き起こすと言われていますが、それがいつ起こるか、どの程度の被害が出るか、はっきりしたものは不明です。過去の統計では新型インフルエンザが発生した場合、国民の4人に一人が感染し、最大64万人が死亡すると想定されています。必ず大流行するわけではありませんが、流行に備えて住民一人ひとりが、備えをしておくことが大切です。

●一人ひとりができること

新型インフルエンザは人から人へと感染します。爆発的な流行の際、自分ひとりだけで健康を守ることは困難です。家族や職場、地域の人たちと一緒に協力して準備しておきましょう。

★食料・日用品を蓄える

流行している時期は、なるべく自宅にとどまり、不必要な外出を避けましょう。そのためには保存できる食べ物や毎日使う日用品の備蓄を、普段からしておくことが必要です（リスト参照）。

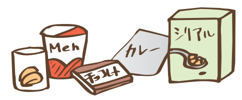
★正しい衛生習慣・エチケットを身につける

普段から、外出先から帰ったらうがい・手洗いをしている人は多いかと思いますが、これも新型インフルエンザの予防に役立つと考えられます。また、感染した人がほかの人へ感染させないためにマスクの着用が重要です。咳やくしゃみは見えない唾液とウイルスを飛ばしています。マスクをしていない時はティッシュなどで口と鼻をおおい、顔を人には向けず、1メートル以上離れましょう。口や鼻を触った手はすぐに洗うことも必要です。使ったティッシュは密封できるビニール袋などに入れて処理します。

ウイルスが飛び散ったり、吸い込んだりするのを完全に予防できるわけではありませんが、熱や咳、くしゃみなどの症状がある人は早目にマスクを着用してください。

☑ 個人での備蓄品（例）

食料品類
（長期保存可能なもの）

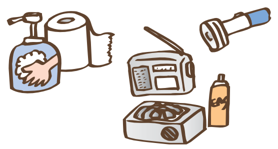

Meh
カレー
チョコレート
シリアル

□主食（米・もち・麺類・シリアル・乾パン）
□冷凍食品（停電に注意）
□各種調味料
□レトルト・フリーズドライ食品
□缶詰類
□お菓子類
□ミネラルウォーター
□ペットボトルや缶入りの飲料

日用品・医療品類

□常備薬（胃薬・痛み止め・その他持病の処方薬）
□絆創膏・ガーゼ・コットン
□解熱鎮痛剤（成分によってはインフルエンザ脳症を助長する可能性があるため購入時に医師・薬剤師に相談）
□体温計
□マスク・ゴム手袋（使い捨て）
□漂白剤（次亜塩素酸）
□消毒用アルコール
□水枕・氷枕

その他
（あると便利なもの）

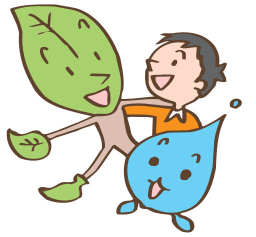


□懐中電灯・乾電池・携帯電話充電キット
□ラジオ・携帯テレビ
□カセットコンロ・ガスボンベ
□トイレットペーパー・ティッシュペーパー
□台所用ラップ・アルミホイル
□洗剤・石けん・シャンプー・リンス
□保湿ティッシュ（アルコール含む）
□生理用品・紙オムツ（子ども用）
□ビニール袋（汚染されたごみの密封に利用）

参考文献：「個人および一般家庭・コミュニティ・市長村における感染対策に関するガイドライン」「新型インフルエンザ対策パンフレット」

「環境にやさしいまちづくり」の推進を宣言

～環境フォーラム2008～



11月23日に開催した「環境フォーラム2008」の中で、町の宝である豊かな自然環境を未来につないでいくために、町民一人ひとりは環境に負担をかけない暮らし方を、企業は環境に配慮した取り組みを、行政はそれらへの支援を推進していくことで、町民・企業・行政がスクラムを組み「環境にやさしいまちづくり」の推進を宣言しました。

大津町環境フォーラム2008！

宣言を行う吉田尚子さん

「環境にやさしいまちづくり推進会議」を設置します

今回環境フォーラムに参加した14団体によって、幅広く連携し、豊かな自然や生活環境の保全、ごみ減量化、循環型社会の構築、地球環境問題の認識と協働による環境保全活動の推進を行い、個々の環境意識の向上と環境にやさしいまちづくりを推進していくことを目的に推進会議を設置します。

今後、「環境にやさしいまちづくり」のための取り組みを実践していきます。

環境保全活動に功績があった4団体2個人を表彰

清掃などの社会貢献活動やごみ減量による循環型社会への貢献などの環境保全活動に顕著な功績があった人たちを表彰しました。

- ●エコライフグループ
- ●環境ボランティアグループ「4R白川」
- ●中学通区老人会ニコニコ会
- ●木村 守さん
- ●㈱ルネサス九州セミコンダクタ
- ●大田黒 忠勝さん

表彰を受ける皆さん

講演
「ストップ地球温暖化～私たちにできること！」

熊本県立大学環境共生学部篠原亮太教授が地球温暖化発生の仕組みや地球温暖化防止に一人ひとりができる取り組みについて講演がありました。

パネルディスカッション
「環境にやさしいまちづくりの推進～活動報告」

篠原教授をコーディネーターに迎え、環境ボランティアグループ「4R白川」代表吉田尚子さん、大津町女性の会代表坂本晶江さん、NPO法人里山まもり隊・どんかっちょ事務局長月尾純一朗さん、㈱ルネサス九州セミコンダクタ代表取締役中川治さんに大津町長を加えた5人でパネルディスカッションが行われました。

それぞれの活動を報告し、地球環境にやさしい取り組みや自然豊かな大津町を次の世代に引き継ぐためにできることをそれぞれの立場から発表を行いました。

地球温暖化防止や菜の花プロジェクトなどの展示コーナー